2025年5月11日

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

探究的な問いにもとづく単元デザイン

～『歴史総合』の試みを事例として～

成蹊大学　二井正浩

Ⅰ「歴史総合」の構想

1. 地理歴史科の科目構成はどう変わったか

地理A
日本史A
世界史A
地理B
日本史B
世界史B
※世界史必修（AorB），
日本史，地理から1科目履修
※標準時間数：Aは2単位，Bは4単位

→

地理総合
歴史総合

地理探究
日本史探究
世界史探究

※総合科目は必修，
探究科目はその後選択可能
※標準時間数：総合は2単位，
探究は3単位

⇨ 世界史必修の廃止
それまでの日本史A・世界史Aに代わる「歴史総合」の創設

1947年に「日本史」「世界史」体制が
高等学校に成立して以来の新しい枠組み科目

2.「歴史総合」の構想の際に留意したかったこと

① 必履修科目である以上，受験の有無にかかわらず全ての高校生が歴史を**学ぶ意味**について実感できるものとする。

② 後続選択科目である「日本史探究」「世界史探究」の近現代史と**重複した学習論（通史学習）にならない**ものとする。

③ 後続選択科目の「日本史探究」「世界史探究」を履修しない生徒にとって，小・中・高等学校での**歴史学習の総仕上げ**となる科目にする。

④ 学習指導要領改訂の柱である「**主体的対話的で深い学び**」が可能な科目にする。

➡ **生徒自身が探究する「問い」の構築**を重視する
テーマ史的な構成を採用

なぜ、「問い」を重視するのか

なぜ、「問い」を重視するのか

3. 歴史教育の課題～歴史における事実と解釈～

(1)本当はどっち？

次の資料１，資料２のいずれかは，それぞれ韓国および日本の中学校の歴史の教科書の記述です。韓国および日本の教科書がどちらであるか考えて下さい。

【資料1】

百済が全盛期を迎えるのは4世紀後半である。百済は、中国の東晋や倭と外交関係を結び、背後から高句麗を牽制した。それをきっかけに百済は、黄海を越えて中国の遼西・山東地方や日本の九州地方に進出し、活動の舞台を海外に広げた。

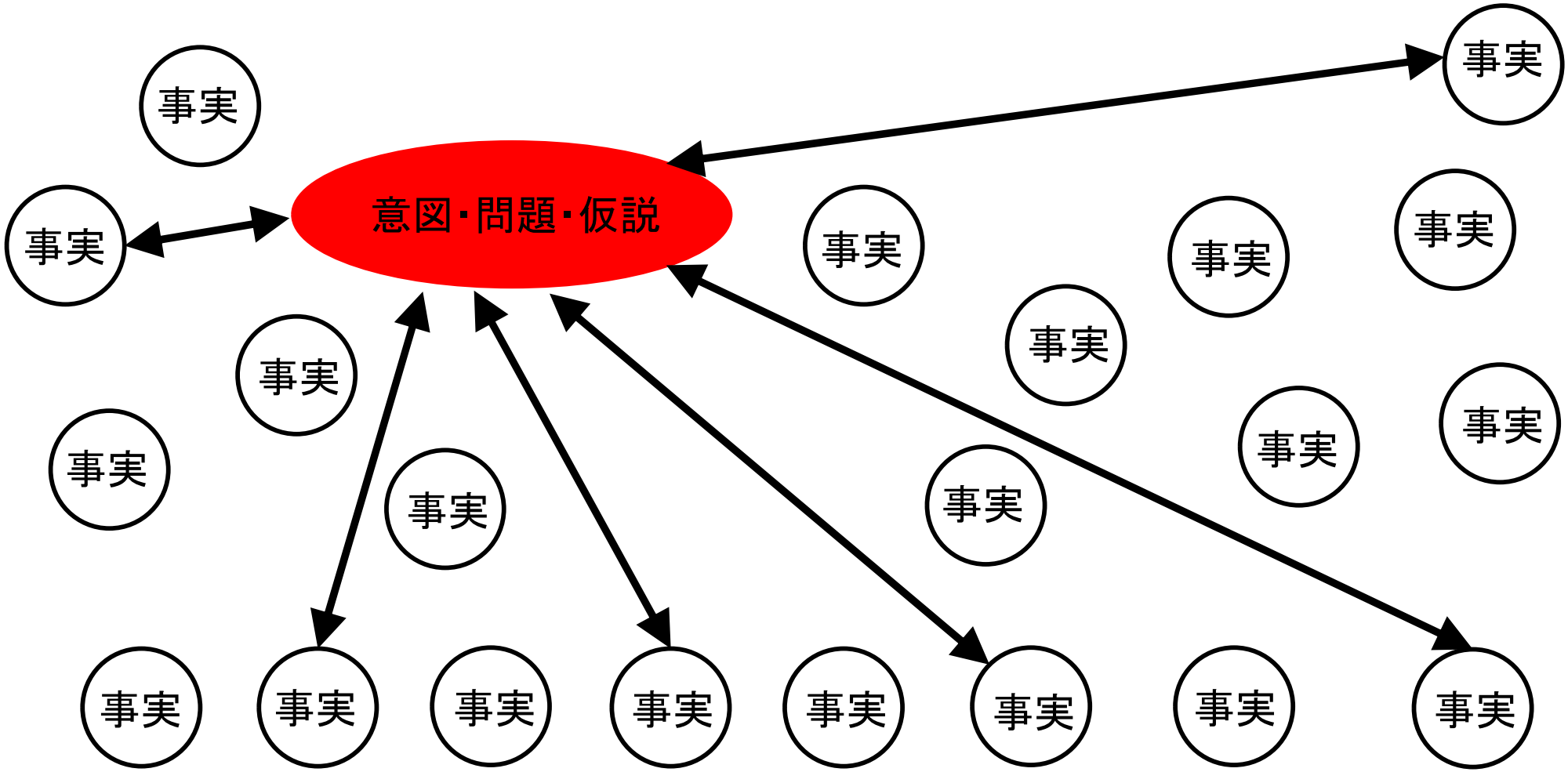
【資料2】

４世紀の中ごろ，朝鮮半島では，北に**高句麗**が勢いを強め，南に**百済**と**新羅**が国を建て，たがいに争っていた。大和政権は，鉄や，大陸のすぐれた技術を求めて，朝鮮半島の南部にも勢いをのばす。５世紀には，大王が中国に使いを送り，朝鮮半島の南部を支配する地位を認めてもらおうとした。

事実の選択の違い
⇨「説明・解釈」の違い

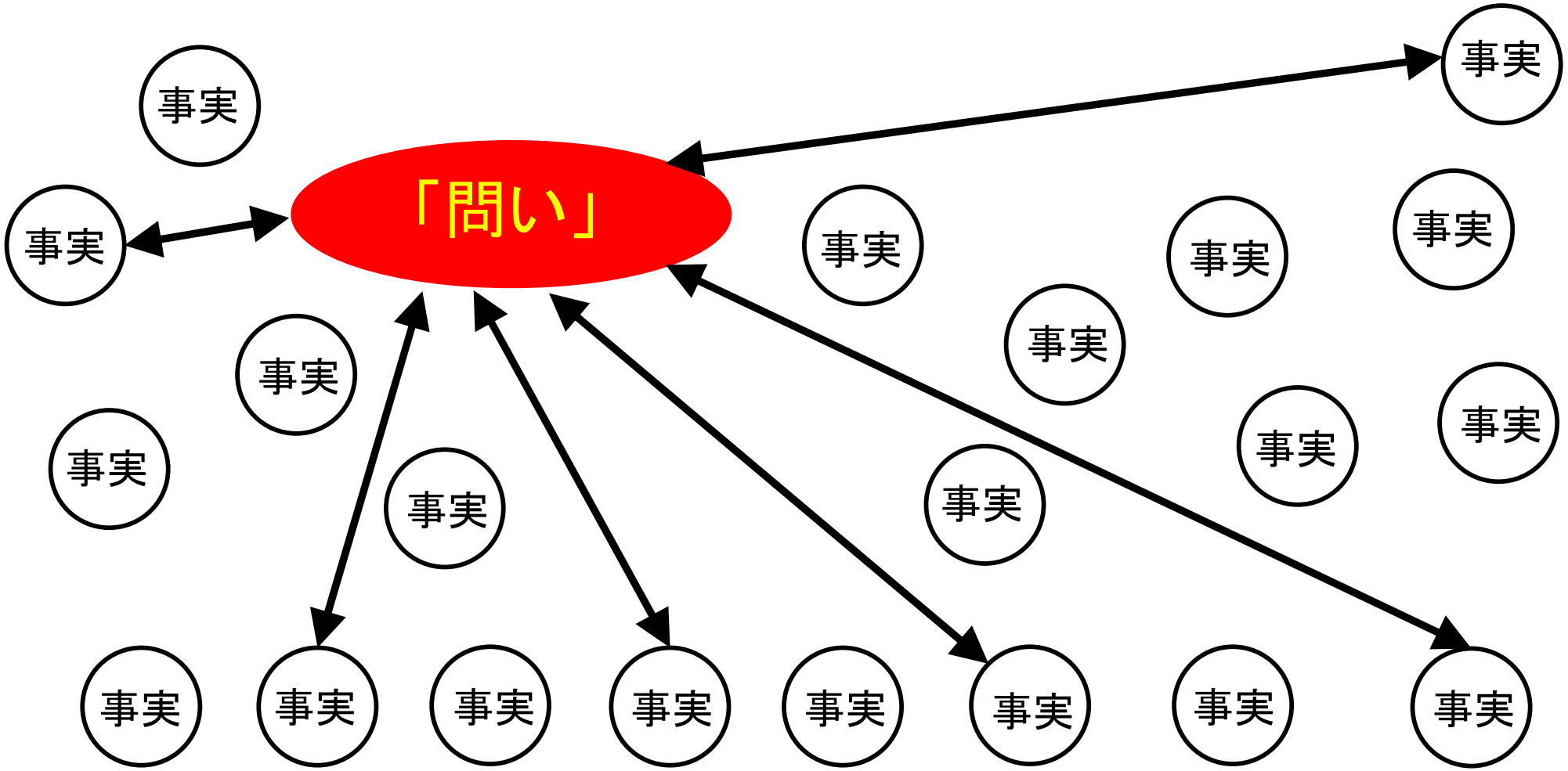
(2)歴史認識（社会認識）の構築性（現代歴史学の手法）
～『歴史のための闘い』（1953年，リュシアン=フェーブル，平凡社ライブラリ，p.18）

歴史は全て選択にほかなりません。（中略） 歴史家は明確な意図，解明すべき問題，検証すべき作業仮説をいつも念頭において出発します。そのような理由から，歴史はまさしく選択なのであります。



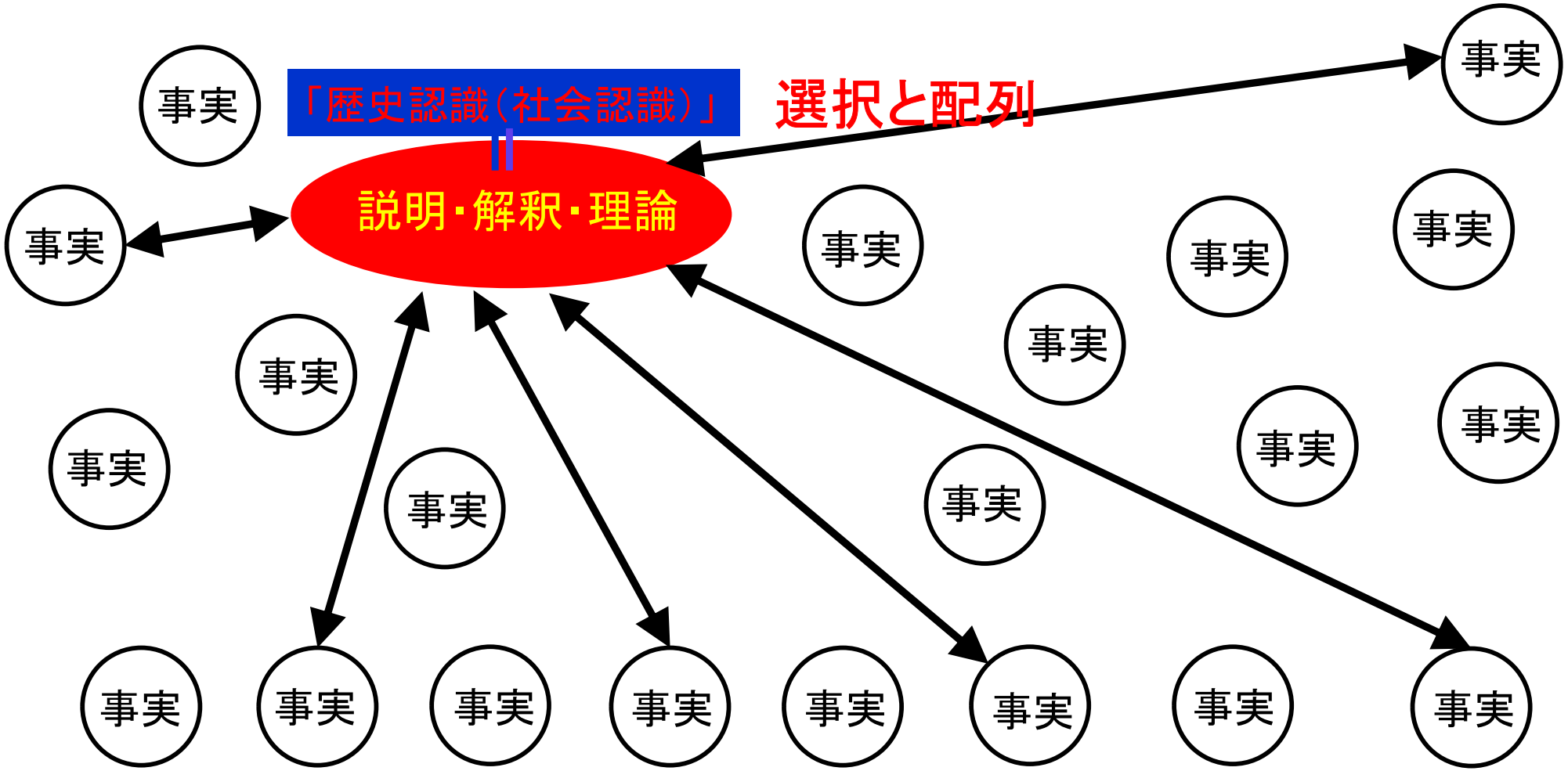
(2)歴史認識（社会認識）の構築性
～『歴史のための闘い』（1953年，リュシアン=フェーブル，平凡社ライブラリ，p.18）

歴史は全て選択にほかなりません。（中略） 歴史家は明確な意図，解明すべき問題，検証すべき作業仮説をいつも念頭において出発します。そのような理由から，歴史はまさしく選択なのであります。



(2)歴史認識（社会認識）の構築性
～『歴史のための闘い』（1953年，リュシアン=フェーブル，平凡社ライブラリ，p.18）

歴史は全て選択にほかなりません。（中略） 歴史家は明確な意図，解明すべき問題，検証すべき作業仮説をいつも念頭において出発します。そのような理由から，歴史はまさしく選択なのであります。



(3)それ以前の歴史～歴史教育は何を語ってきたか～

①東アジアの“歴史書”

〇中国：二十四史（二十五史、二十六史とも言う）

〇日本：　六国史・武家政権による史書・大日本帝国による史書

〇琉球・朝鮮・ベトナム

・政権の正統性を主張するための、自国の政治の流れ

➡「正史」　他の歴史は容認されない　偽史・野史

②ヨーロッパ近代歴史学の成立

ランケ（独：Leopold von Ranke　1795－1886）

「近代歴史学の父」「それは事実いかにあったのか」を探究する実証主義的な研究法

・国家（および国家関係）単位の歴史叙述

【主著】『ドイツ史6巻』『プロイセン史9巻』『フランス史』『英国史』『世界史概観』

➡ 19世紀の「国民国家・ナショナリズム」の高揚を支える歴史学

これまでの歴史教育の語り

政治史中心

新しい正史

知識・理解の歴史

（再掲）

2.「歴史総合」の構想の際に留意したかったこと

① 必履修科目である以上，受験の有無にかかわらず全ての高校生が歴史を**学ぶ意味**について実感できるものとする。

② 後続選択科目である「日本史探究」「世界史探究」の近現代史と**重複した学習論（通史学習）にならない**ものとする。

③ 後続選択科目の「日本史探究」「世界史探究」を履修しない生徒にとって，小・中・高等学校での**歴史学習の総仕上げ**となる科目にする。

④ 学習指導要領改訂の柱である「**主体的対話的で深い学び**」が可能な科目にする。

➡ **生徒自身が探究する「問い」の構築**を重視する
テーマ史的な構成を採用

なぜ、「問い」を重視するのか　　現代的歴史アプローチ

II「歴史総合」の内容構成と「問い」の位置づけ

1.「歴史総合」の項目立て

A　歴史の扉
(1) 歴史と私たち
(2) 歴史の特質と資料
B　近代化と私たち
(1) 近代化への問い
(2) 結び付く世界と日本の開国
(3) 国民国家と明治維新
(4) 近代化と現代的な諸課題
C　国際秩序の変化や大衆化と私たち
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
(2) 第一次世界大戦と大衆社会
(3) 経済危機と第二次世界大戦
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
D　グローバル化と私たち
(1) グローバル化への問い
(2) 冷戦と世界経済
(3) 世界秩序の変容と日本
(4) 現代的な諸課題の形成と展望

【図1:「歴史総合」の大中項目】

「〇〇と私たち」

→留意点①に対応し，
多様な生徒が学ぶ意義が
実感できる科目として

＝レリバンス（関係性）の創出

現代的な諸課題につながる歴史的な状況（例）

＜a 自由と制限＞＜b 富裕と貧困＞＜c 対立と協調＞
＜d 統合と分化＞＜e 開発と保全＞ など

学習内容の焦点化

A 歴史の扉 ～歴史をなぜ学ぶか，どう学ぶか～（例：歴史と現在～現代的な諸課題）

・・18世紀後半～現在

・産業社会と国民国家を形成する動きがみられ，社会が大きく変化しはじめた。

B 近代化と私たち～社会構造の変化を考察するために

〔単元例〕
＊結び付く日本と世界
○産業社会の到来，政治の変革
○日本の改革，アジアやアフリカの変容
など
（まとめ）歴史と現在①～近代社会

〔考察を深める問いの事例〕（例）a～bなどを中心として
・日本・世界はどのように結び付いたか
・工業化と政治変革は何をもたらしたか
・日本，アジアやアフリカはどのように変化したか
（まとめ/基軸となる問い）社会の近代化は何をもたらしたか など

・・19世紀後半～現在

・大衆の参加の拡大が社会全体の在り方を規定するようになりはじめた。

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち 社会との関わりを考察するために

〔単元例〕
○大衆社会の形成，社会運動の高まり
○国際紛争と国際協調
○大戦後の世界・日本
など
（まとめ）歴史と現在②～大衆社会

〔考察を深める問いの事例〕（例）a～cなどを中心として
・なぜ政治参加と文化活動が拡大したか
・なぜ戦争がすべての人々を巻き込むものになったか
・大戦を経て，どのように社会は変わったか
（まとめ/基軸となる問い）社会の大衆化は何をもたらしたか など

・・20世紀後半～現在・・

・人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて一層流動するようになりはじめた。

D グローバル化と私たち～持続可能な社会を展望するために

〔単元例〕
○多極化と地域統合
○地域紛争と国際秩序
○世界とその中の日本
など
（まとめ）歴史と現在③～グローバル社会

〔考察を深める問いの事例〕（例）a～eのいくつかから
・冷戦構造の変化は何をもたらしたか
・冷戦終結後も，なぜ地域紛争は続くのか
・日本は国際社会にどのように関わってきたか
（まとめ/基軸となる問い）国際社会のグローバル化は新たに何をもたらしたか，あなたはどんな日本/世界を求めるか など

通史ではなく，三つのテーマ学習として構想

（2016年6月13日 中央教育審議会教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ
配付資料8-1「高等学校学習指導要領における『歴史総合（仮称）』の方向性①（案）」より）

2. 単元展開の一例:「B 近代化と私たち」

A　歴史の扉
(1) 歴史と私たち
(2) 歴史の特質と資料
B　近代化と私たち
(1) 近代化への問い
(2) 結び付く世界と日本の開国
(3) 国民国家と明治維新
(4) 近代化と現代的な諸課題
C　国際秩序の変化や大衆化と私たち
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
(2) 第一次世界大戦と大衆社会
(3) 経済危機と第二次世界大戦
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
D　グローバル化と私たち
(1) グローバル化への問い
(2) 冷戦と世界経済
(3) 世界秩序の変容と日本
(4) 現代的な諸課題の形成と展望

【図1:「歴史総合」の大中項目】

事例の出典：国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』2021，pp. 88-116）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_chirirekishi.pdf

【大項目（大単元）「B 近代化と私たち」の展開例 （20時間程度）】

中項目	小単元	学習活動	評価の観点 知	思	態	評価規準等
(1)近代化への問い	小単元1	【ねらい】交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し，近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現する。 課題「近代化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを問いの形にして表現してみよう」				
		★補足 96ページ ・これまでの学習や中学校の学習を踏まえて，近代化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，情報を読み取る。	●			●近代化に伴う生活や社会の変容について，資料から情報を読み取ったり，まとめたりしている。
		近代化に伴う生活や社会の変容について，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを見いだして，問いの形に表現する。		●		●近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現している。
					●	●大項目全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
(2)結び付く世界と日本の開国	小単元2	【ねらい】18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴，アジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，18 世紀のアジアの経済と社会を理解する。 主題 「18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係の特徴」				
		小単元２の学習の見通し ・小単元２全体に関わる問い「18 世紀頃のアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係はどのように特徴付けられるのだろうか」について考察する。			●	●小単元２全体に関わる問いの答えを予想することで，小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
		第①次 18 世紀のアジアや日本における生産と流通 課題 a「18 世紀頃の中国や日本では，それぞれどのような商品がどのように生産され，流通していたのだろうか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
		課題 b「あなたは，18世紀頃の中国と日本の商品生産や流通を比較したとき，その共通点と相違点のうち，何が重要だと考えるか，それはなぜか」		●		●18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。
		第②次 アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易 課題 a「18世紀頃のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易・交易はどのような特徴をもっていたか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
		課題 b「あなたは，なぜアジアでは欧米諸国が求める商品を供給できたと考えるか」		●		●18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。
		第③次 まとめ ・各次の学習内容を踏まえて，小単元２全体に関わる問いについて，資料を活用して考察し，その結果を表現する。		○		○18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，小単元２全体に関わる問いについて考察し，表現している。
			○			○「18世紀のアジアの経済と社会」について理解している。
	小単元3	【ねらい】産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，工業化と世界市場の形成を理解する。 主題「産業革命が世界各地に与えた影響」				
		小単元３の学習の見通し ・小単元３全体に関わる問い「イギリスに始まる産業革命は，世界各地の社会や経済をどのように変えたのだろうか，また，その変化は，アジアと欧米の関係をどのように変えたのだろうか」について考察する。			●	●小単元３全体に関わる問いの答えを予想することで，小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
		第①次 産業革命と交通・通信手段の革新 課題 a「なぜイギリスで産業革命が展開したのか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
		課題 b「あなたは，産業革命が人々の生活をどのように変化させたと考えるか」		●		●産業革命の影響に着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。
		第②次 中国の開港と日本の開国 課題 a「欧米は，なぜ中国の開港，日本の開国を求めたのだろうか，中国や日本は，その後，貿易の拡大にそれぞれどう対応したのだろうか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
		課題 b「あなたは，中国の開港と日本の開国が国際社会に与えた影響のうち，最も重要なものは何だと考えるか，それはなぜか」		●		●中国の開港と日本の開国の背景とその影響に着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。
		第③次 まとめ ・各次の学習内容を踏まえて，小単元３全体に関わる問いについて，資料を活用して考察し，その結果を表現する。		○		○産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，小単元３全体に関わる問いについて考察し，表現している。
			○			○「工業化と世界市場の形成」について理解している。
		・小単元２・３の学習をふまえて小単元１で表現した問いについて確認し，必要に応じて修正する。			●	●自身の学習について振り返り，調整しようとしている。
(3)	4 5	※中項目(3)国民国家と明治維新（小単元４・５）の構造は中項目(2)（小単元２・３）に準ずる。 ★事例７ 100 ページ				
(4)近代化と現代的な諸課題	小単元6	【ねらい】自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調などの観点から設定された主題について多面的・多角的に考察し，表現することを通して，現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 ＜課題１＞ 主題「貿易を巡る国内や国家間の対立」（自由・制限を観点に） 課題（問い）「貿易を巡る問題が，なぜ国論を二分したり戦争へ発展したりするのだろうか，また，この問題は，現代に続く課題とどのような点が関連しているのだろうか」 ＜課題２＞ ・小単元１で表現した問いを振り返ろう。				
		★事例８ 108ページ ＜課題１＞ ・課題（問い）について，これまでの学習を振り返り，資料を活用して，現代的な諸課題との関連を考察し，話し合った結果を表現する。		○		○事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，主題について，現代的な諸課題に関連付けて，多面的・多角的に考察し，表現している。
			○			○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解している。
		＜課題２＞ ・小単元１で表現した問いを振り返り，新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。			○	○「近代化と私たち」における学習の経緯について，よりよい社会の実現を視野に，自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに，次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

【中項目「(1)近代化への問い」（小単元1）の展開例 （2時間）】

時	学習活動	評価の観点 知	思	態	評価規準等
第1時	【小単元１のねらい】中学校までの学習及び大項目Ａ「歴史の扉」の学習を踏まえ，諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し，人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことに関して抱いた興味・関心や疑問などを基に，追究したいことを見いだして，自分自身の問いを表現する。				
	【第１時のねらい】教育や労働などに関する資料を基に，近代化に伴う生活や社会の変容についての情報を読み取ったりまとめたりする。 第１時の学習課題 **「近代初期の 10 代を取り巻く社会や生活はどのようなものだったのだろうか」（現代の私たちとどのように異なる（あるいは同じ）だろうか）**				
	【学習課題の設定】 ・中学校までの学習や大項目Ａ「歴史の扉」の学習を踏まえ，「近代化」について理解していることをクラスで共有するとともに，学習課題を設定する。				（「近代化とは何だろうか」に対する生徒の発言や記述例） ・技術や医療が進歩し，機械化が進むこと。 ・世界的なつながりが強くなること。 ・欧米などの文化や技術を取り入れて，自国に反映させること。
	【労働に関する資料の読み取り】近代初期のアメリカ，日本，イギリスの 10 代の労働に関する資料を基に，労働の近代化による生活や社会の変化について考える。 ［問い］当時と今でどのような違いがあるだろうか。資料から当時の労働について，どのようなことがわかるだろうか。どのような疑問が生まれるだろうか。				［資料］ ・近代のアメリカの労働の様子が分かる資料 （例えば，繊維機械の使い方を子どもに説明している写真など） ・近代のイギリスの工場での労働の様子が分かる資料 （例えば，当時の長時間労働を説明している資料など） ・近代の日本の労働の様子が分かる資料 （例えば，和田英による富岡日誌など）
	【指導上の留意点】労働についての資料を読み取る際には，「学校は行っていなかったのか」という生徒の疑問を導き，教育の話につなげたい。				（生徒の発言や記述例） ・機械化と長時間労働を行い，大量生産をして利益を求めるようになった。 ・働くことへの希望に溢れる人もいたようだけど，労働環境が相当悪かったみたい。
	【教育に関する資料の読み取り】近代初期の教育に関わる資料を基に，近代化による生活や社会の変化について考える。 ［問い］当時と今で教育にはどのような違いがあるだろうか。資料から当時の教育について，どのようなものだったことが分かるだろうか。そこからどのような疑問が生まれるだろうか。 ［資料］ ・ヨーロッパ各国の読み書きできる人口の比率 ・1872 年の学制 ・日本の就学率の変化を示したグラフ ・明治時代の教科書（デジタルライブラリー） P. 99 参照				（生徒の発言や記述例） ・識字率が向上しているのは学校の影響と思う。 ・子供のほとんどが学校に通うようになるのは 30 年くらいかかっている。 ・算数など，今の教科もあるが，作法や修身などの今はない教科もある。 ・絵が入っている教科書もある。
	【資料からの考察のまとめ】 ・近代化によって人々の生活や社会はどのように変化したのだろうか，資料から読み取ったことをまとめる。		●		●複数の資料から情報を読み取り，課題（問い）についてまとめている。 （生徒の発言や記述例） ・労働では機械を扱うようになり，現在のような大量生産が可能になっていったと考えられる。でも，子供や女性が働かされていて，中には働くことへの希望にあふれる人もいたようだけど，労働環境が相当悪かったみたいだ。一方で，国が子供に教育を一斉に行うようになり，今と同じように学校でいろんな教科が始まっている。
第2時	【第２時のねらい】学校教育，労働と家族などに関する資料を活用し，近代化に伴う生活や社会の変容についての自分自身の問いを表現するとともに，単元の学習の見通しを立てる。 第２時の課題 **「近代化に伴う生活や社会の変容について，これからの学習で自分が考えてみたい問いを表現しよう」**				
	【前時の内容の確認】近代化に伴う生活や社会の変化について，現代と比較して考える。 ［問い］現代の私たちと，近代初期の 10 代を取り巻く社会や生活はどのように異なる（あるいは同じ）だろうか。） ・前時で読み取った生活や社会の変化について，生徒同士で交流し合い，発表する。				（生徒の発言や記述例） ・現代の私たちと近代の 10 代を取り巻く社会や生活は違う。学校へ通うといった雰囲気は似ているが，近代初期は，国に貢献するために働き，学ぶという印象が強い。
	【問いの表現】近代化と私たちについて自分が追究していきたいことを問いとして表現する。 ・これまでの学習の中で，自分が考えてみたい疑問を整理する。 ・図書館等で自分の疑問に関連する資料を収集し，疑問について調べる。 ・生徒同士で交流し，議論することを通して，問いとして表現する。		●		●これまでの学習を踏まえ，大項目Ｂ「近代化と私たち」で追究したいことを，問いとして表現している。 （生徒の発言や記述例） ・女性が不当に扱われたのはなぜか，どうやって権利が認められるようになったのか。 ・なぜ教育が始められたのだろうか。 ・なぜ修身や作法などの礼儀を学校で学ぶ必要があったのか。
	【学習の見通し】これからの近代化の歴史を学んでいく上で，どのような点に注意し，学習を進めていくかについて考える。			●	●近代化の歴史に関わる諸事象について，表現した問いに対する見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	【指導上の留意点】学習課題を示すなど，この単元でどのような学習が行われるのかをある程度把握させた上で考えさせたい。				（生徒の発言や記述例） ・世界と日本の関わりに注目して，国家と国民の関係性や権利の考え方がどのように変化したかについて，日本と他の国々を比べながら学びたい。

【中項目「(3)国民国家と明治維新」の小単元5の展開例 （5時間）】

次	時	学習活動	評価の観点 知	評価の観点 思	評価の観点 態	評価規準等
第①次 列強の進出と植民地の形成	第1時	【ねらい】帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 主題「帝国主義政策の影響」 小単元５全体に関わる問い「帝国主義政策は，国際社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか」				
		小単元５の学習の見通し ・小単元５全体に関わる問いについて，中学校までの学習や「歴史総合」のこれまでの学習などを踏まえて，どのようなことが分かると問いが明らかにできるかについて，見通しをもつ。			●	●小単元５全体に関わる問いについて，見通しをもって学習に取り組もうとしている。
		第①次の課題　課題ａ「列強が帝国主義政策をとった理由は何だろうか」 課題ｂ「植民地獲得競争はどのように進められたのだろうか」 課題ｃ「アジア・アフリカは，植民地支配の中でどのように変化したのだろうか」				
		・課題ａについて，当時の風刺画や世界の工業生産を示すグラフなどの資料を基に，科学技術の発展や第二次産業革命の進展など列強の国内状況を確認し，資料から読み取る。 ・課題ｂについて，列強の植民地領有面積を比較する資料などを基に，列強の植民地獲得競争の状況や列強間の対立が生じた背景を確認し，資料から読み取る。 ・課題ａ，課題ｂについて，生徒相互で話し合い，その結果をワークシートに記入する。	●			●諸資料から課題の解決につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	第2時	・19 世紀後半の列強による世界分割を示す地図から，アジア・アフリカの状況を確認し，当時の状況を把握する。 ・アヘン戦争後の清朝社会の矛盾や太平天国の乱の展開，フランスのインドシナ植民地化への展開，エジプトのウラービー運動の展開などを示す資料を基に，植民地とされた各地の人々が置かれた社会状況の変化や近代化に向けた動向，民族意識の形成などを捉え，課題ｃについて考察し，その結果をワークシートに記入する。		●		●資料から読み取った情報を基に，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響について着目し，アジア・アフリカの変化や動向を多面的・多角的に考察している。
第②次 日清・日露戦争	第3時	第②次の課題　課題ａ「アジアは日清・日露戦争を経て，どのように変化したのだろうか」 課題ｂ「日清・日露戦争は，当時の日本にどのような影響を与えたのだろうか」				
		・課題ａについて，日清戦争と台湾の植民地化，各国の中国への進出，三国干渉，ロシアの中国・朝鮮への進出，日露戦争と韓国併合，各国の日清・日露戦争後の政策などを確認する。 ・当時のアジアの地図等を活用して，日清・日露戦争を経た東アジアの変化，日本と列強諸国との関係，日本とアジア諸国との関係などを捉え，課題ａについて資料から読み取ったことをワークシートに記入する。	●			●諸資料から課題の解決につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	第4時	・当時の新聞，地域に残る忠魂碑などの戦争遺跡資料等を活用して，当時の日本人の意識やアジアの人々の意識の変化について考察する。 ・日清・日露戦争の意味や意義について話し合い，課題ｂについて考察し，その結果をワークシートに記入する。		●		●小単元４で学習した国民国家の形成を踏まえ，日清・日露戦争が国内に与えた影響に着目して，日清・日露戦争が与えたアジア，日本への影響や，国内のアジアへのまなざしの変化などについて考察している。
小単元５のまとめ	第5時	小単元５のまとめ 小単元５全体に関わる問い「帝国主義政策は，国際社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか」				
		・資料を活用し，当時の日本やアジア，列強の諸状況や列強への対応に関する当時の多様な意見について考察し，その結果を相互に発表する。P. 107 参照 ・上記の学習活動を手がかりに，小単元５全体に関わる問いについて，本単元での学習を振り返って考察し，その結果を表現する。 ・「列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容」について文章でまとめる。 ・この小単元のはじめに記した「見通し」の記述と比較して，考えが深まった点や視点が広がった点などを各自で確認する。	○	○		○帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などについて多面的・多角的に考察している。 ○列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解している。
		小単元４と小単元５（中項目(3)）の学習を踏まえた，「近代化への問い」との関係の確認				
		・「国民国家と明治維新」（小項目４，小項目５）の学習を終え，小単元１で表現した自身の「近代化への問い」との関係について，新たに気付いたことをワークシートに記入する。			●	●自身の問いについて，立憲体制と国民国家の形成，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容と関連付けて追究しようとしている。

小単元４と小単元５とを合わせて，学習指導要領上の中項目(3)「国民国家と明治維新」の学習が終了する。そのため，二つの小単元の学習と，小単元１で生徒自身が表現した「問い」を関連付けて学習を振り返る場面を設定している（P. 95 参照）。よって，評価規準にも小単元４の「立憲体制と国民国家の形成」が加えられている。

【中項目「(4)近代化と現代的な諸課題」（小単元6）の展開例 （3時間）】

時	学習活動	評価の観点 知	思	態	評価規準等
	主題「工業化がもたらした近代の光と影」 小単元６全体に関わる問い「産業革命に始まる工業化は人々に何をもたらしたのだろうか」				
第1時	**主題や問いに対する見通しをもつ** ・小単元６全体に関わる問い「産業革命に始まる工業化は人々に何をもたらしたのだろうか」について考察し，見通しをもつ。 **諸資料を活用して考察する** ・工業化がイギリス，インド，日本にもたらしたものを諸資料から読み取り，整理する。 ・整理した内容を，互いに発表し合い，表にまとめる。		●		●資料を活用し，同時代の社会及び人々がそれをどのように受け止め，対処の仕方を講じたのかを考察している。 ［資料］ ・当時のイギリス，インド，日本の経済を比較する資料 ・イギリス製品の流入がインド手工業に与えた影響など，イギリスとインドについて考察する資料 ・日英修好通商条約など，イギリスと日本について考察する資料 ・日本の変革について海外の反応を考察する資料
第2時	**課題を追究したり，解決したりする** ・諸資料を根拠にして，「平等・格差」の両面から考察し，小単元６全体に関わる問いについて，イギリス，インド，日本の間で生じた経済的格差の原因や，その格差を埋め平等を実現しようとする思想や行動が生じたことについて，多面的・多角的に考察し，その結果を表現する。 ・単元全体を振り返り，「近代化とは何か」について，自分の言葉でまとめる。 ・小単元６全体に関わる問いに対する説明や，「近代化とは何か」についての考えをグループで発表し合い，相互に確認し合う。		○		○事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較して，主題について多面的・多角的に考察し，表現している。 【指導上の留意点】以下のような視点を考えられる。 ・工業化が人々にもたらした課題に対し受け止め方や対処の仕方について資料 ・イギリス，インド，日本の動向を比較し関付けたりしている。 ・工業化が人々にもたらした課題の背景などを説明している。 ・私たちが直面している現代的な課題に関係していることを理解している。
	・相互の評価を踏まえて，「近代化とは何か」についての自らの考えを見直したり修正したりして，文章で整理する。	○			○現代的な諸課題の形成に理解している。
第3時	**学びを振り返る** ・「近代化と私たち」での自身の学習を振り返り，次の学習に向け目標を立てる。 P.112，ワークシート参照。			○	○よりよい社会の実現を視野まえて「近代化と私たち」に，次の学習へのつながり

教育におけるレリバンスは「一つは，我々人類の存亡に関わる世界が直面している諸問題との関連としての社会的レリバンス．もう一つは，自己の実存的尺度に基づく真実・興味・意味といった個人的レリバンス」
（ブルーナー，『教育の適切性』1972，p.204）

(4)現代的な諸課題への「問い」
社会的レリバンス

中項目(1) 近代化への問い
小単元１

(1) 小項目(ｱ)

交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し…

・資料を活用する技能を身に付ける。

・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現する。

中項目(2) 結び付く世界と日本の開国
中項目(3) 国民国家と明治維新

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，多面的・多角的に考察，表現し，

(2) 小項目(ｱ) 小単元２
18世紀のアジアの経済と社会

小項目(ｲ) 小単元３
工業化と世界市場の形成

(3) 小項目(ｱ) 小単元４
立憲体制と国民国家の形成

小項目(ｲ) 小単元５
列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容
などを理解する。

中項目(4)
近代化と現代的な諸課題

小単元６

(4) 小項目(ｱ)

現代的な諸課題につながる歴史的な観点（自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調など）から主題を設定し，諸資料を活用して，追究したり解決したりする活動を通して考察し，

現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史

を理解する。

(1)生徒自身の「問い」
個人的レリバンス

3.「歴史総合」の項目構成の構造

【大項目B「近代化と私たち」の構造と「問い」】
（国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』p. 95）

(1)近代化への問い	(2)結び付く世界と日本の開国	(3)国民国家と明治維新	(4)近代化と現代的な諸課題
・資料を活用し，…近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，**問いを表現する** ＜小単元１＞	・18世紀のアジアの経済と社会を理解する ＜小単元２＞ ・工業化と世界市場の形成を理解する ＜小単元３＞	・立憲体制と国民国家の形成を理解する ＜小単元４＞ ・列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する ＜小単元５＞	・現代的な諸課題につながる歴史的な観点から，主題を設定し，…**現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史**を理解する ＜小単元６＞

「問い」の表現

学習内容と「問い」との関係の確認，「問い」の見直し①

学習内容と「問い」との関係の確認，「問い」の見直し②

主題の考察への「問い」の活用（※D（4）では，主題の設定にも活用）

近代化に伴う生活や社会の変容についての問いを深化させたり，新たな課題（問い）を見いだしたりする

生徒にとって身近な生活や社会変化を表す近代化に関連した資料を様々に取り上げながら，生徒が興味・関心を持ったこと，追究したいことなどについて，**自分自身の「問い（疑問）」**を見つけさせる

生徒自身の「問い」

(1)で生徒が見つけた疑問を踏まえながら，教師は生徒たちの見つけた「問い（疑問）」が深化し，新たな「問い（疑問）」の発見につながるように学習内容を工夫しながら授業を進める

「問い」の深化・発展

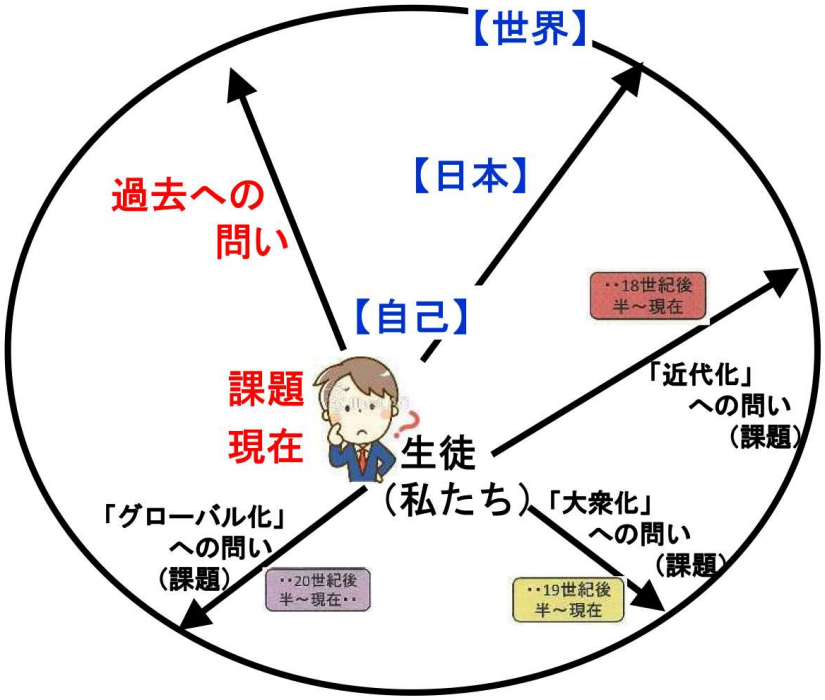
(1)から(3)までの学習を踏まえ，現代的な諸課題が近代化とどう関わっているのかについて主題を設定し，考察・表現する

現代的な諸課題への「問い」

大項目ＢＣの(4)ではテーマは教師が設定しても生徒が設定しても良いが，大項目Ｄの(4)では**生徒自身がテーマを設定**する。

（文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編』pp. 128-129を**もとに**二井作成）

4.「歴史総合」の探究と留意点①～④への対応



【図3:「歴史総合」探究イメージ】

二井作成

① 必履修科目である以上，
受験の有無にかかわらず全ての高校生が
歴史を**学ぶ意味**について実感できるものとする。

→“自分事”の「問い」によるレリバンスの担保

② 後続選択科目である「日本史探究」「世界史探究」
の近現代史と**重複した学習論（通史学習）にならない**
ものとする。

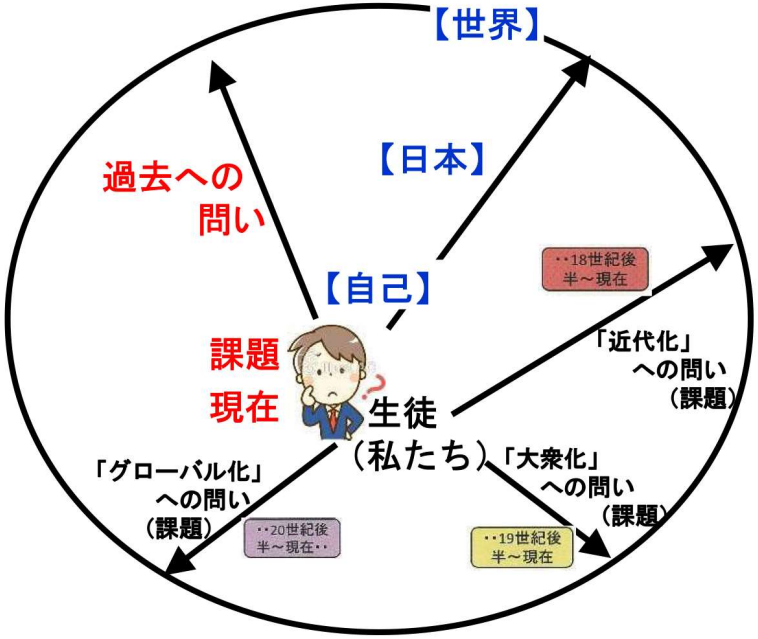
→「問い」に基づく主題学習の論理の導入

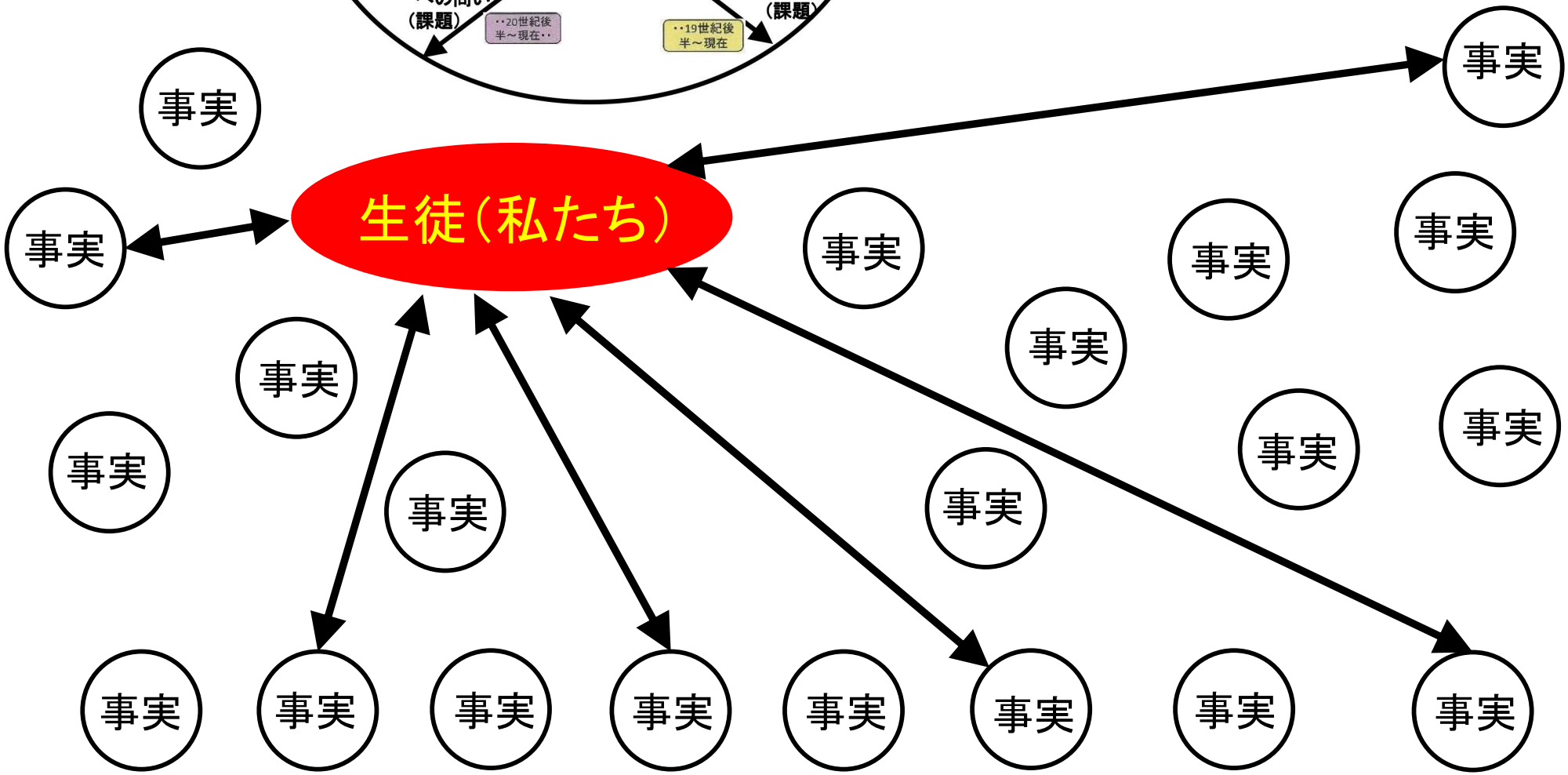
③ 後続選択科目の「日本史探究」「世界史探究」を
履修しない生徒にとって，小・中・高等学校での
歴史学習の総仕上げとなる科目にする。

→現代的諸課題の理解のための歴史活用

④ 学習指導要領改訂の柱である「**主体的対話的で深い
学び**」が可能な科目にする。

→「問い」に基づく探究活動の実施


【世界】
【日本】
過去への
問い
【自己】
課題
現在
生徒
（私たち）
・・18世紀後
半～現在
「近代化」
への問い
（課題）
「グローバル化」
への問い
（課題）
・・20世紀後
半～現在・・
「大衆化」
への問い
（課題）
・・19世紀後
半～現在


生徒（私たち）
事実

III 課題と意義

(1)課題

①依然として通史としての歴史を生徒に“与える”授業が数多く見られる。

＝通史学習から脱却できていない教師のビリーフ

②内容知が過多。

＝指導要領への批判，教科書にも影響

(2)成果

・自らの「問い」を探究する「歴史総合」は，“権威”が規定し与えてきた通史としての歴史，つまり，生徒にとっては“与えられた”歴史を，生徒ひとり一人に“取り戻す”意義がある。

「歴史を取り戻す」ための作業＝ここでは，拙くても良いので「自分の『問い』によって過去を再構築する作業」

＝歴史とのつきあい方を認識する作業

新科目創設＝歴史教育への現代的アプローチ
歴史教育の新しい可能性を拓くまたとないチャンス
課題も多いが，修正・発展を願っている